

贅沢な悩み

野瀬隆平

昨年異常に暑かったせいか、今年の冬は特に寒いように思う。

我慢して風邪を引いてはいけない、健康第一と理屈をつけて、部屋を快適な温度にするべく暖房をつける。石油ストーブではなくエアコンなので電気代が気になる、と同時に温暖化の観点からも少々気が引けるが……。

好き勝手にエアコンで暖房していたら電気代がいくらになるのか、請求金額を見るのが怖い。そういえば東電は2021年からだったか、紙の請求書を送ってこなくなり、銀行口座から引き落とされた金額を見て初めて、電気代がいくら掛かったのかを知ることとなる。

去年一月の電気代は2万5千円位だったが、これと比較して今年はどうなるか、もうすぐ解る。

ところで、毎月の電気代を始めとする公共料金を、ここ十数年来こまめにエクセルを使って集計してきたので、金額を細かく検証することができる。2019年の年間合計の電気代は約13万円だったのが、2023年は約16万円である。

ちなみに電気代が月ごとにどう変動するかをみると、当然のことながら寒い冬の一月・二月がピークで、夏の暑い時も冷房するので山が出来る。

この電気代、家計の中でどのくらいの割合を占めるのか。電気代にガス代と水道料金を含めたらどうなるか。エクセルの表からすぐに導きだされる。

ここで、意外と費用が掛かっているのが通信費である。固定電話や携帯電話の料金、インターネットの光回線やプロバイダーへの支払いなど加えると馬鹿にならない金額だ。自動的に引き落とされるので眼に見えにくいですが、通信費はほぼ電気代と同じくらい掛かっている。

ここまで書いてきて、はたと思い当たった。蛇口をひねれば水が出る、スイッチを押せば明かりが点き、エアコンで部屋が暖かくなる。日ごろ当たり前と思っていることが、出来ない状況に置かれている人たちが日本だけではなく世界の各地にいる。

そのことを想うと、料金が安いのか高いのかと考えるのは、誠に贅沢な悩みと云う他はない。